



行政のできる自主防災組織の強化と防災対策



無会派 ● 藤川 みゆき 議員

医療助成金について

問 骨髄移植ドナー支援助成金とがん患者医療用ウィッグ購入助成金の活用実績はどの様

になっていきますか。良い取組みなものでもっと周知をするべきではないでしょうか。

答 前者は平成29年度0件、平成30年度1件、後者は昨年度8件、今年度4件の実績です。広報こなんなどに掲載申請書はHPからダウンロード可能です。

防災について

問 区長さんの負担を増やさず、なおかつ自主防災を強化する為、

自主防災組織の編成表の一律化やガイドライン、連絡網の作成など、より具体化する働きかけをしてはどうでしょうか。

答 他市の活動や事例を参考にしながら、自主防災組織の充実を

図っていきます。

問 避難所の開設を住民の方が認識するにはどのような方法がありますか。

答 避難所は一斉に開設するのではなく、災害の種類により徐々に開設されるのでテレビ、HP、タウンメール、消防団などの協力などで可能な限り発信していきます。

県指定の土砂災害警戒区域の建物への対策はどの様にしますか。

答 防災講座や出前講座を通して早めの避難行動などを啓発し、公共施設は建替えの際に検討していきます。



高齢者も支える全世代型の共生ケアを！



無所属の会 市民の力 ● 植中 みやこ 議員

介護現場の人材不足

問 2025年には、滋賀県では3400人の人材が不足するとの推定です。福祉人材確保推進協議会と協働して、就職フェアや研修会を開催し、確保に努めています。

問 退院直後から介護サービスが使えるべきでは。

答 入院中から、専門職が連携して退院後の症状によるケアプランをたてるマニュアルや、介護認定が見込まれる事例には、暫定的な決定としてサービス支給できることを、ケアマネジャーに周知します。

問 高齢者の健康対策や介護予防対策事業を、全世代を含む共生ケアの居場所づくりは。

答 地域に先進事例の情報を提供して、取り組みを働き掛けたい。

問 認知症サポーター

4500人の活用は。

答 認知症の人と家族が安心して地域で暮らし続けられるよう、さりげない見守りを期待しています。

問 滋賀の縁創造センターの、福祉制度のはざままで支援が届きにくく苦しんでいるひきこもり支援事業に、財源の確保協力は。

答 サービスの提供に対する報酬の仕組みがないため、財源が確保されなければ事業運営が難しく、課題を共有して可能な限り連携協力していきたい。

小中学生のネット依存

答 「スマホ三ヶ条」を作って、家庭でルールを作り、守れているか話し合っしてほしいと呼び掛けています。ネットいじめはあるとの前提で注意深く把握していきます。